

燧ヶ岳山スキー報告

【山城】尾瀬燧ヶ岳

【日程と天気】2018年5月6日 晴れ

【メンバー】CL 菊池・鶴田・池田・加藤・井上（里）

【行程】

5日：千葉－桧枝岐・ミニ尾瀬公園駐車場（仮眠）

6日：駐車場－御池－広沢田代－熊沢田代－燧ヶ岳山頂（俎嵯直下）－往路に右側ルート
を滑走－広沢田代－御池－帰葉



・賞味期限ギリギリの燧ヶ岳山スキーに行ってきた。GW後半は当初、高谷池ヒュッテ2泊の予定であったが、寒気が入り中止、2年連続で同時期に御池から入山した。駐車場上からシール登行しているグループもあったが、藪漕ぎ・急斜面で苦労が目に見えていたため始めからアイゼン登行とした。笹藪が激しく木道まで出ているところもある。ど



の辺から滑走可能なのであろうか?? 序盤から登山道ルートは沢状の急斜面で苦勞する。昨年の秋、このルートをヘロヘロで下ったが岩ゴロゴロで難儀した。



この2年間に尾瀬はなんと5回目である。山スキーでは6~7回目であろうか。最も遅い時期では5/24頃、その時でも駐車場から十分の残雪があり全行程滑走できたが今回のように少ない残雪の山スキーは初めてである。標高差200m上げたこの辺から上部は何とか滑走可能である。広沢田代でも草原が出ている。



急斜面を頑張って登り、シラビソ林の藪漕ぎを少しして標高1986mの熊沢田代に出ると、山頂方面の全貌が望める。山頂下の大斜面は藪で分断されており、どのルートで登降するか思案のしどころである。湿原が大きく現れているが雪は何かつながっている

シラビソ林を抜けると最後の急斜面の登りであるが、笹がこんな感じで出ているとこ



ろもあった。融雪の速さが実感できる。



驚きは融雪の速さだけではなく、こんな砂で覆われた状態は初めてである。恐らく前日の大風で山頂周辺の土が飛ばされたのであろう。少し上がったところで休憩しアイゼンを装着、藪を5m程漕いで左の雪渓に移動し、最後の急斜面を頑張った。昨年は最後までシル登山可能であったが、今回はクートも持参したが、高温にも拘らず雪面は締まっておリアイゼンの方が楽である。頂上直下に到着、俎嶺には数m、藪の



中を登らねばならず諦め、尾瀬沼を見下ろすポカポカの平坦地で30分ほど休憩した。大江湿原は既に出ており、水芭蕉の時期は間近のようである。

さあ、お楽しみの滑走である。会津駒が岳をバックに記念撮影です。滑走ルートは出来るだけ長く快適に滑れそうな雪渓に狙いを定めた。まず稜線直下の真白で快適な30度前後の大斜面、ホールラインに向かって



適度に緩んだ極上ザラメの快適滑走である。その後左方向へトラバースして、狙いを定めた雪渓に突入した。やや硬く緩やかな凹凸が少しあるが雪質は良い、斜度は30度を超すところもあり、スピードをコントロールしながら慎重に滑走した。次第に、表面が砂で覆われるようになったが、滑走には差し支えない

5名中2名は燧ヶ岳山スキー初体験です。標高差250m程無難に滑走して左方に移動しシラビソ林に入った。



今回の滑走ラインはいつもより右方です。時にルートを修正するため20mほどの登り緩急・ウネリ・沢地形・急斜面トラバースなど変化に富んだ滑走でしたが滑りやすい雪質のため、初めての滑走ラインでしたが天気も良くストレスは少なかった

2回目の登上げ約7mで広沢田代の縁に出ました。広沢田代の池塘群もこんな感じで融雪が進んで、間もなく花の季節が訪れますね！！



、6月初めくらいまで山スキーを楽しみたいですが、1日位、尾瀬ヶ原の水芭蕉山行に変更してもよいかなあ！！ 臨機応変に考えよう。

広沢田代の少し下 1700m位までは滑走可能、その下部はスキーを枝に引っ掛けないよう、苦労しながらツボ足で下降した。



尾瀬周辺はブナ林が素晴らしいですね。今年は季節の進みが早くブナの新緑も御池より下部では始まっており車窓から楽しめました。例年ですと、まだ残雪が多く山スキーの時期に、残雪と新緑のブナ林の素晴らしい写真が撮影できるのですが、今年は残雪が少なすぎるため残念です。

いつもの駒の湯で疲れを癒し、帰路についた。西那須塩原 IC の手前で蕎麦を食べ、IC の前では 20 時閉店のガソリンスタンドにタッチの差で間に合わず、国道 4 号線のスタンドで給油、矢板 IC から高速に乗り、GW 最終日のため殆ど渋滞がなく帰葉できた。



